

2025年12月期第3四半期 決算説明資料



本資料の構成



2025年12月期第3四半期業績について	2
2025年12月期 通期業績予想について	11
株主還元	13
今後の事業展開	15
APPENDIX	19

2025年12月期第3四半期 業績について

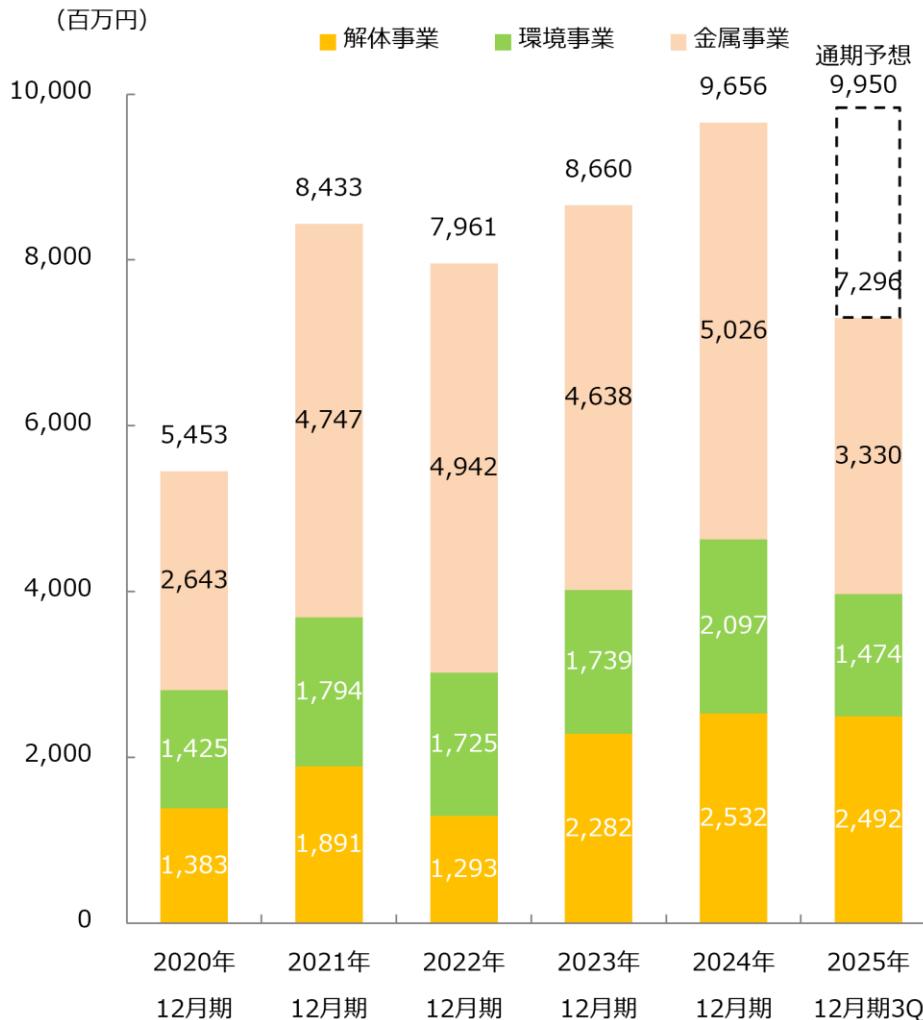
売上高7,296百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益454百万円（前年同期比24.6%減）

- ◆ 鉄スクラップ相場は前年同期から概ね20%低い水準にて著増減無く推移
- ◆ 銅など非鉄金属の相場は4月初頭の暴落があったが、平均価格は前年同期並
- ◆ 解体事業において、特定の大型案件に関し第2四半期に損失を処理。3Qに挽回するも通期では減益

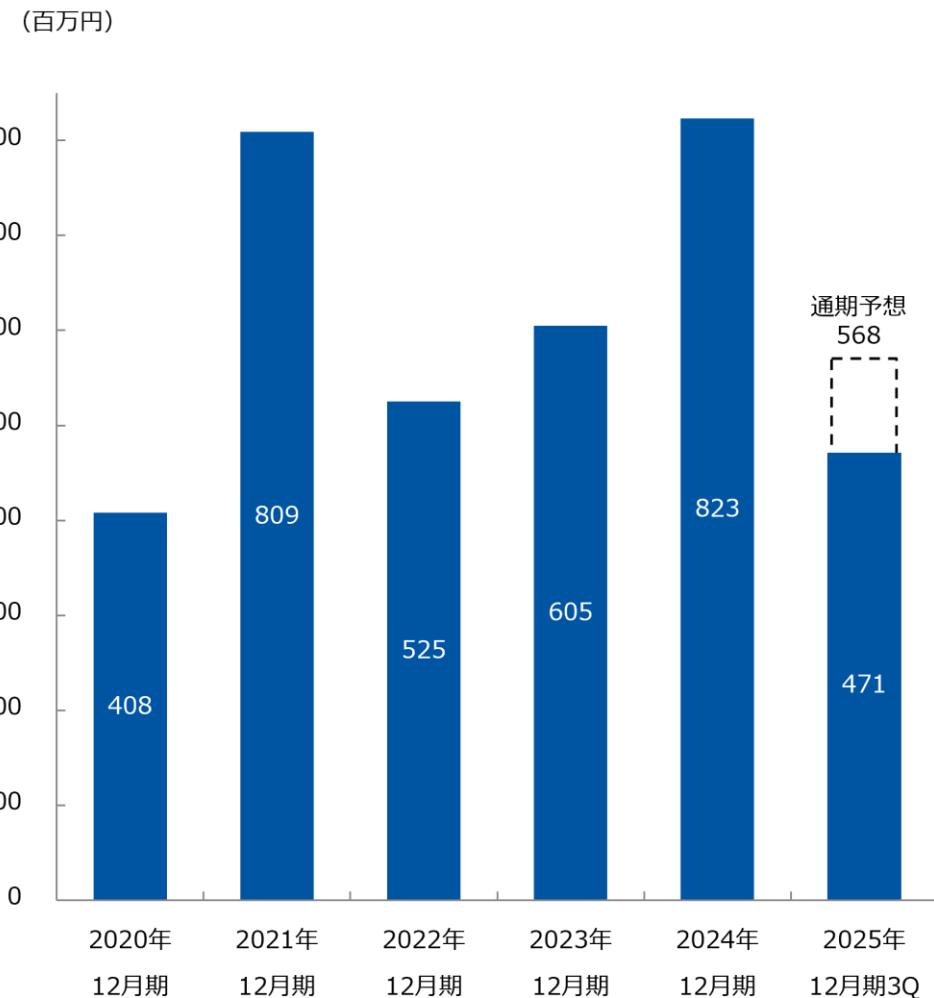
単位：百万円

	2024年 12月期3Q	売上比	2025年 12月期3Q	売上比	増減額	増減比
売上高	7,225		7,296		70	1.0%
営業利益	603	8.3%	454	6.2%	△ 148	△ 24.6%
経常利益	621	8.6%	471	6.5%	△ 150	△ 24.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	406	5.6%	429	5.9%	23	5.7%

売上高（連結）



経常利益（連結）



解体事業

- ◆ 大規模施設解体工事等の大型案件の進捗で増収するも原価が増大し減益。
- ◆ 受注損も計上し、現時点で見込まれる損失は対応済み
- ◆ 後のページにて詳細説明

環境事業

- ◆ 産業廃棄物の処理受託の取扱量が増加するも、鉄スクラップ相場の低迷で再生資源販売が伸び悩み減収、減益

金属事業

- ◆ 鉄スクラップ価格が前期より低い水準で推移したことにより減収
- ◆ 近隣の大型解体工事等から発生する老廃スクラップの加工増、及び非鉄金属相場の上昇により増益

連結セグメント別業績（売上高）

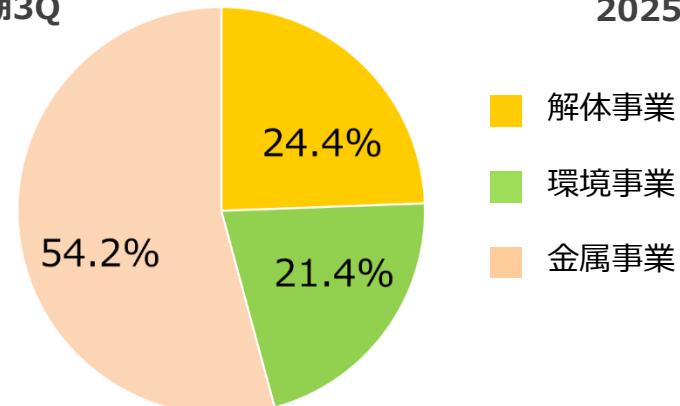


- ◆ 解体事業は(株)ミツ工の新規連結、および大型解体案件の進捗により伸長（利益については次頁にて説明）
- ◆ 環境事業の処理受託量が増加するも、再生資源販売が軟調で減収
- ◆ 金属事業のスクラップ取扱量が軟調、また鉄スクラップ相場の下落により減収

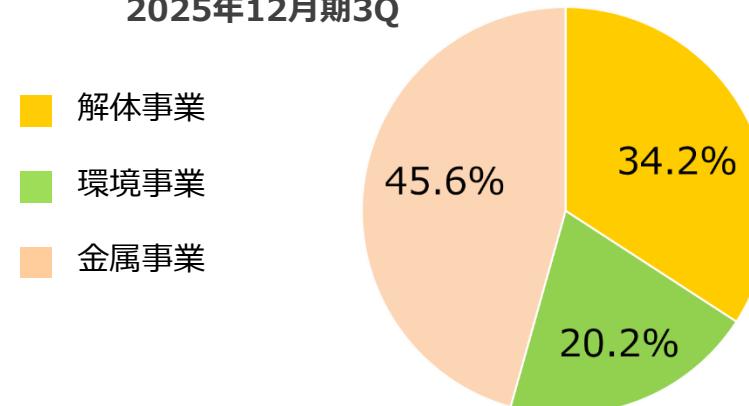
単位：百万円

セグメント	2024年 12月期3Q	構成比	2025年 12月期3Q	構成比	増減額	増減比
解体事業	1,764	24.4%	2,492	34.2%	727	41.2%
環境事業	1,543	21.4%	1,474	20.2%	△ 69	△ 4.5%
金属事業	3,917	54.2%	3,330	45.6%	△ 587	△ 15.0%
合計	7,225	100.0%	7,296	100.0%	70	1.0%

2024年12月期3Q



2025年12月期3Q



営業利益の減少理由

複数の大型解体案件（進行基準で収益認識）で、想定を超える原価の発生を受け見積総原価を変更。これに伴い工事進捗度が伸びず売上計上額が減少。また残工期中に予想される損失額も併せて引当計上した

他工事や(株)ミツエで利益を計上するも、主に上記要因により解体工事セグメントの営業利益が減少した

何が要因か？

<外的要因>

近隣のすべての産業廃棄物処理業者がコンクリートガラの受入を制限したため、遠方に振替えた

<内的要因>

- ・大口顧客との関係構築のため戦略的な価格で受注
- ・高難度の大型解体工事に元請けで新規参入したことにより、独自の構内ルールや高度な安全施工ルールへの対応により費用が増加
- ・想定外の建物の堅牢性により機械の追加投入による費用、修繕費用および燃料費が増加
- ・急激な事業の成長や工事の大型化・元請受注の増加に見合ったマンパワーが不足

当該案件による効果

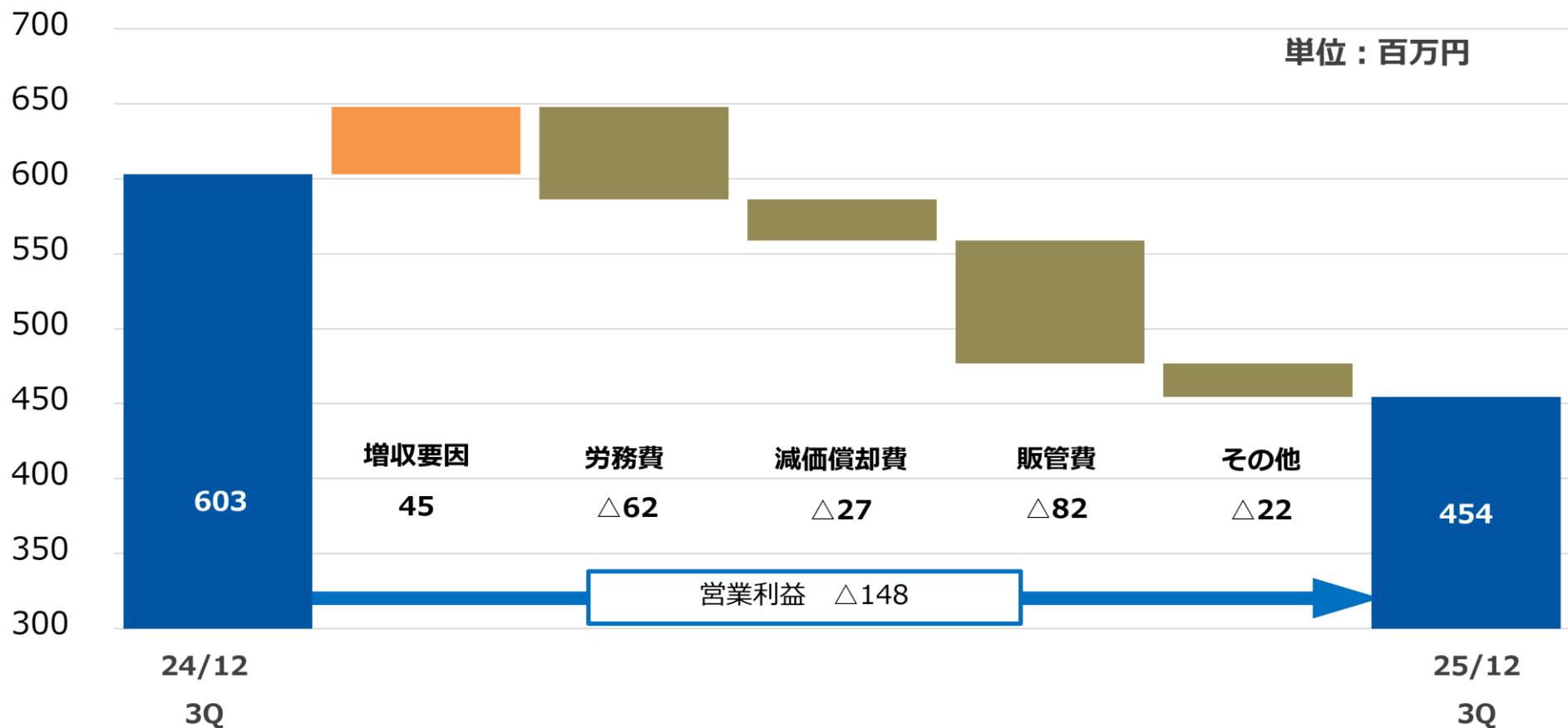
- ◆ 当該案件にて営業目的の見学会・勉強会を開催し、超大型重機のデモの場として大きくPRすることができ、来期以降の大規模な案件の引き合いにつながった
- ◆ 求人活動において、最新の超大型重機と高度な施工技術を導入した解体工事現場での見学会が成功し、多くの優秀な人材を確保できた
- ◆ 超大型重機のオペレータを5名養成することができ、今後の超大型重機の追加導入にも対応できる体制ができた
- ◆ 監督人材が育成され、複数の大型案件を並行して施工できる体制が整備された
- ◆ 特殊プラント工事に元請にて関与するために必要なノウハウを得た
- ◆ 超高強度のコンクリートの躯体解体に必要なノウハウを得た
- ◆ グループ3社が施工に関与したことで各社の技術交流による多能化が推進された。また(株)ミツ工が当社グループ企業となつたことでより円滑な連携を確認することができ、今後の自社施工の協力体制を強化できた
- ◆ 高難度の大型解体工事に伴うリスクを見積に反映させるプロセスが改善された

残工期中に予想される損失額も併せて引当計上

営業利益の増減要因分析



- ◆ 鉄スクラップ相場の下落により環境セグメントの再生資源販売の売上が減少、金属セグメントで減収も非鉄金属の相場上昇で増益
- ◆ 解体セグメントにおいて複数案件について損失計上、(株)ミツエが利益貢献
- ◆ 従業員の増加等により販管費が増加



連結貸借対照表



(株)ミツエの子会社化、阪神地区での事業用土地取得、超大型重機導入により現金及び預金が減少し有形固定資産が増加、大型解体案件の進捗に伴う債権の増加や配当の実施も現金及び預金の減少に影響
単位：百万円

	2024年 12月期末	構成比	2025年 12月3Q	構成比	増減額	増減比
流動資産	3,560	56.2%	3,750	51.5%	190	5.3%
現金及び預金	2,261	35.7%	2,177	29.9%	△ 84	△ 3.7%
受取手形、売掛金及び 契約資産(含完成工事未収入金)	1,093	17.2%	1,305	17.9%	212	19.4%
固定資産	2,776	43.8%	3,533	48.5%	756	27.3%
有形固定資産	2,131	33.6%	2,788	38.3%	657	30.8%
無形固定資産	34	0.5%	26	0.4%	△ 7	△ 23.5%
投資その他の資産	611	9.6%	718	9.9%	106	17.5%
流動負債	1,388	21.9%	1,426	19.6%	38	2.7%
買掛金	365	5.8%	372	5.1%	6	1.9%
工事未払金	168	2.7%	336	4.6%	167	100.0%
固定負債	414	6.5%	889	12.2%	475	114.7%
純資産	4,534	71.5%	4,967	68.2%	433	9.6%
株主資本	4,412	69.6%	4,742	65.1%	330	7.5%
総資産	6,337	100.0%	7,283	100.0%	946	14.9%

2025年12月期 通期業績予想について

2025年12月期 通期業績予想



連結損益の予想

単位：百万円

	2024年12月期	前回発表予想（A）	今回修正予想（B）	増減額（B-A）	増減率
売上高	9,656	10,500	9,950	△ 550	△5.2%
営業利益	798	800	548	△ 252	△ 31.5%
経常利益	823	826	568	△ 258	△ 31.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	520	557	486	△ 71	△ 12.7%

予想修正の理由と今後の見通し

- ◆ 大型解体案件の受注が続き本事業での収益拡大が会社業績に寄与することを想定していたが、予想以上の難工事の発生及び資機材の価格高騰により低利益率を余儀なくされ不本意な結果となつた案件もあり業績予想を下方修正
- ◆ 然しながら、足元では、解体現場におけるノウハウの更なる充実や、大型重機の導入で次年度に向けての案件の仕込みが進捗
- ◆ 来期に向けた営業活動と並行し小型案件の獲得による当期利益の積み上げを年度末まで敢行予定
- ◆ 鉄スクラップ事業は本年10月からの市況回復を受け、次年度へ向けて活気付く
- ◆ 産業廃棄物部門は安定推移しており、解体、産廃、スクラップの3事業を有機的に連携する弊社事業モデルにさらに磨きをかけていく

株主還元

1株あたり配当金



	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期 (予想)
1株あたり配当金	27.5円 (普通配当22.5円) (記念配当 5.0円)	32.0円	32.0円

(利益配分に関する基本方針)

株主の皆様への安定配当を継続することを基本としつつ、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を勘案して配当を実施

今後の事業展開

イボキンの強みである、解体・環境・金属の3つの事業によるワンストップサービスを推進させるため、地域的な制限のない解体事業を成長エンジンとしつつ、環境・金属事業の事業地域を拡大するため、バランスよく資源を配分する方針

成長エンジン 解体事業

【メインテーマ】

大型案件への対応能力・信頼性の獲得

- ◆ 大型解体案件にかかる技術の開発と蓄積
 - ✓ 風力発電所解体事業の推進
 - ✓ 超大型解体用重機の追加導入
 - ✓ 提案力・ドキュメント能力向上
- ◆ 営業拠点の増設

安定した経営基盤 環境事業・金属事業

【メインテーマ】

事業エリアの拡大と営業企画部門の設置

- ◆ 事業領域の拡大（検討のスタート）
 - ✓ 営業拠点の増設
 - ✓ 新ヤードの確保
 - ✓ M&Aの積極推進
- ◆ 地元関西圏の解体案件の受注に注力する営業体制の強化

- ◆ 事業拡大を支える人材の確保と育成
- ◆ 先端技術への投資を活発化させ、リサイクル業の変革をリード
- ◆ 環境負荷の見える化及び低減を行い、取引先企業の情報ニーズへ対応



労働集約産業から
知識集約産業へ転換

環境・金属事業

大都市圏型のビジネス拡大

- ◆ 大都市圏型ビジネスが好調
- ◆ 阪神事業所の機能を強化
- ◆ 同事業所の機能拡大となる拠点を検討中

解体事業

東京支店・大阪支店の状況と今後の支店開設

- ◆ 東京支店にて大型案件の獲得実績が増加
- ◆ 大阪支店開設により顧客へのアクセス増
- ◆ 東京支店・大阪支店の増員を計画
- ◆ 他の都市での支店開設も視野に入れる

解体事業の施工体制の拡充



株式会社ミツエの子会社化

- ◆ 兵庫県内の施工体制強化
- ◆ 保有する大型重機の機動的な活用
- ◆ アスベスト除去工事の内製化



超大型建物解体専用機の追加導入

- ◆ 案件の大型化に対応する必要性が高まる
- ◆ 1号機を上回る規模と性能を有する
2号機を本年9月に導入、複数保有に
より機動力増強

工事に伴うCO₂排出量等の算定

- ◆ 工事ごとのCO₂排出量を算定し顧客に提供
- ◆ 解体に伴う老廃屑のリサイクルによるCO₂の削減貢献量を算定し顧客に提供



APPENDIX

会社概要



会社名

株式会社イボキン

代表取締役

高橋 克実

設立

1984年8月

資本金

130,598千円（2025年9月30日時点）

従業員数

189名（連結：2025年9月30日時点）

所在地

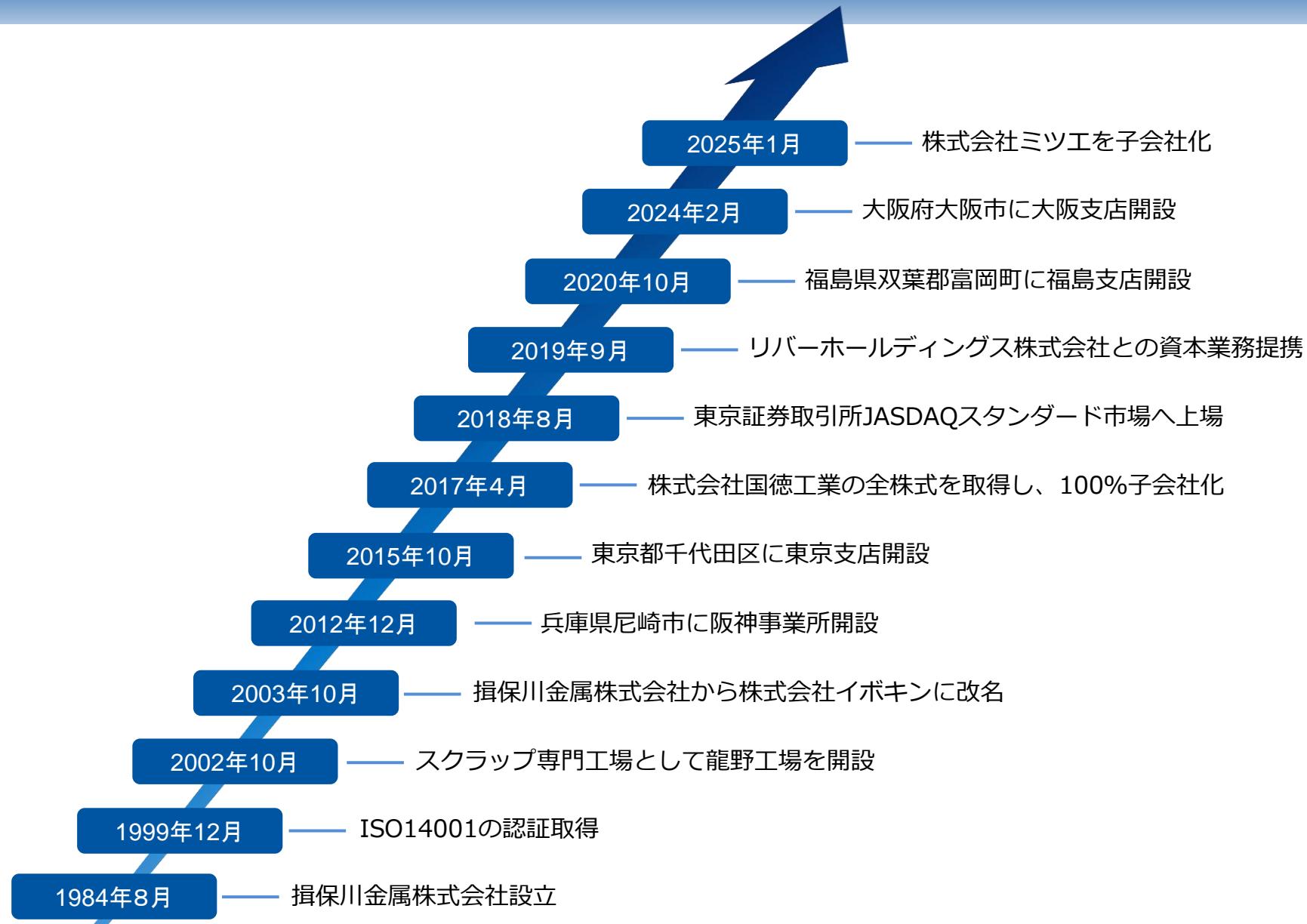
本 社 : 兵庫県たつの市揖保川町正條379
工場・支店 : 本部ビル、本社工場、龍野工場、阪神事業所、東京支店、大阪支店
福島支店、PMR工場、最終処分場

事業内容

解体事業、環境事業及び金属事業による総合リサイクル事業

グループ企業

株式会社国徳工業、株式会社ミツエ



国内事業所



事業所所在地（国内事業所：5 営業所：5）

本部ビル及び本社工場

事業所及び営業所

子会社



本部ビル



本社工場



龍野工場



最終処分場



PMR工場



阪神事業所



(株)国徳工業



福島支店



東京支店



大阪支店



(株)ミツエ

事業内容



3つの事業をワンストップで展開

解体事業

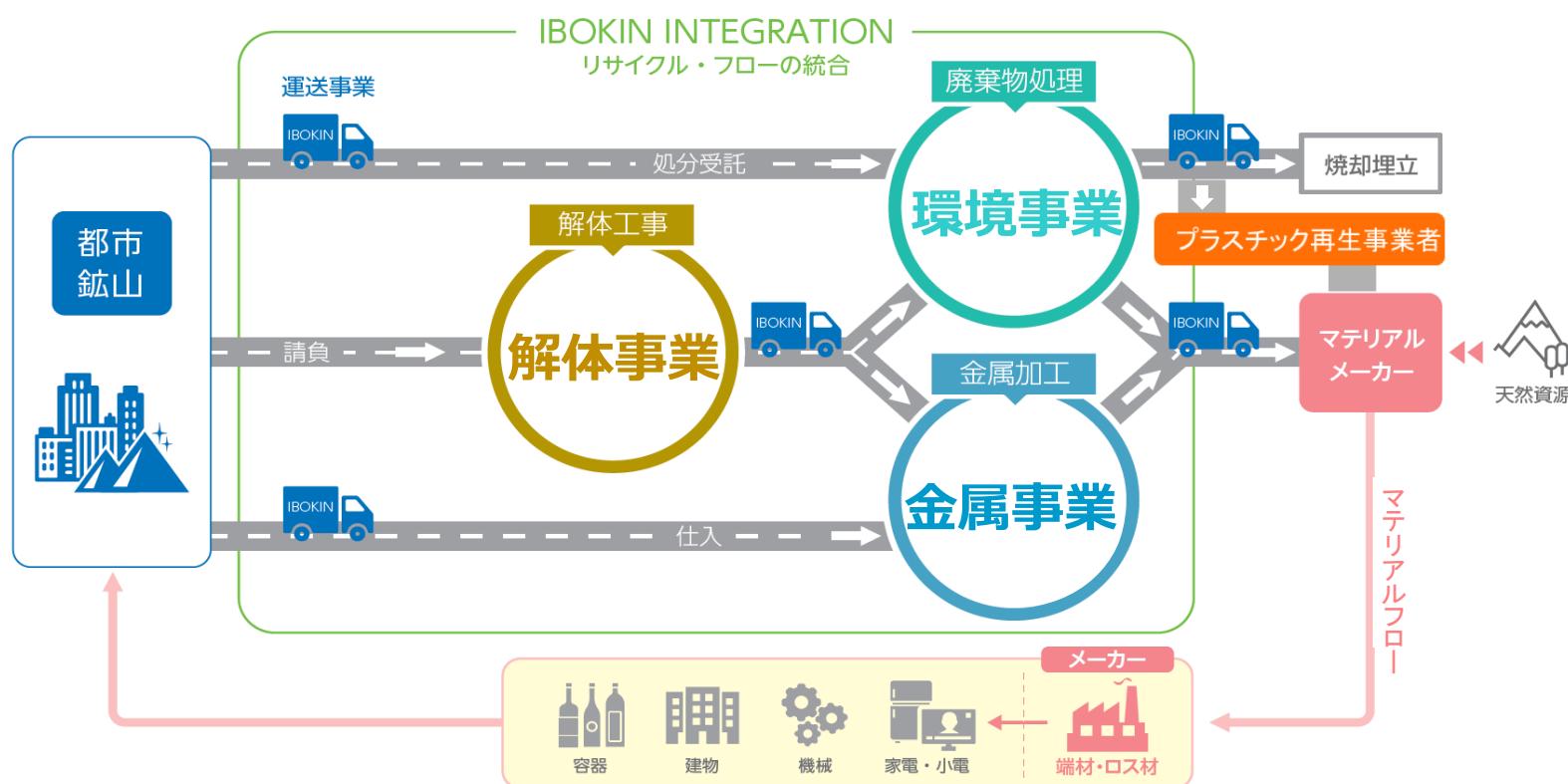
- ## ◆建築構造物やプラント・機械設備の 解体・撤去工事

環境事業

- ◆木材・プラスチック等の分別・加工
 - ◆再生資源の製造販売を含むリサイクル
 - ◆産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分

金屬事業

- ◆鉄・非鉄等の再生加工及び販売
 - ◆使用済み自動車
(ELV:End of Life Vehicle) の解体
による再生資源の販売



資源の一生に、夢と責任。



本資料における注意事項

本資料は投資家の参考に資するよう、弊社の現状を理解していただくために作成したものです。

本資料には、弊社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これら将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

投資を行う際には、ご自身の判断において行っていただきますよう、お願ひいたします。